



TITLE:

相續税ト財産課税(一)

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

---

CITATION:

神戸, 正雄. 相續税ト財産課税(一). 經濟論叢 1918, 7(3): 291-300

ISSUE DATE:

1918-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/127435>

RIGHT:

# 經濟論叢

第七卷

第三號

(通卷第三十九號)

大正七年九月發行

論

說

## 相續稅ト財産課稅(一)

神戸 正雄

緒言(一)本文ノ目的(二)説述ノ順序

第一段 相續稅ノ課稅趣旨(一)所得課稅説(二)財産課稅説(A)普通ノ見解ニ基キ(純僑人的見解ニヨリ、(B)特殊見解ニ基キ(三)折衷説)

第二段 相續稅ノ課稅結果(一)財産課稅ノ條件(二)不利ナル場合ノ解剖(A)財産ヲ賣却セサル場合(B)財産ヲ賣却スル場合(其財産ハ他人ニヨリ一層有益ニ使用(る)稅ハ何人カノ所得ニヨリ支拂(は)稅ハ結局資本トシテ使用(に)此稅ダケ他稅ヲ省略(は)此稅ガ資本被擲ヲ減少)

結論(全篇ノ要旨)

## 緒言

租稅ガ財産元本ヲ侵蝕スルノ懼ムヘキコトハ一般ニ承認サル所デアルガ(註一)、相續稅ハ恰カ

論説 相續稅ト財産課稅(一)

第七卷 (第三號)

一 二九一

モ此財産元本ヲ國家ニ取上ケ行クモノトシテ非難セラレ、又一見洵ニ然ルガ如クデアル。果シテ此ガ當ルヤ否ヤ、是レ相續税批評ニ於ケル一ノ重要問題タルヲ失ハヌ。予ハ前回ノ論文ニ於テハ相續税批評ノ重點トシテ、專ラ相續ニ對スル見方ノ相違ヨリ生ズル此税ノ觀察ヲ試ミタガ、當時此税ガ財産元本ヲ捕捉スルヤノ問題ヲ一言シツツ、此ニ立入ツテ論及スルコトヲ省キタルノ故ニ、茲ニ敢テ之ヲ攻究シテ前文ノ足ラザル所ヲ補足シヤウト思フ。而シテ其ノ之ヲ論述スルニツキテハ、先ヅ以テ此税ガ本來財ニ元本捕捉ノ趣旨ニテ出來タルモノカ否カヲ明カニシ、然ル後其趣旨ノ如何ヲ問ハズ財産元本ヲ捕捉スルノ結果ヲ有ツカ否カヲ考エヤウト思フ。

(註一) わぐな一ハ曰ク、財産及資本ノ寄附ハ新租税論ノ一般ニ正當トセラレ且シ非常ニ重要ナル原則デアルト、しやんつハ曰ク、財産特ニ資本ヲ課スルコトハ良クナイ。何トナレバ其ニヨリ其國ノ未來ノ生産ヲ減少スルカラト、はんめるすはいむモ亦曰ク、國家需費ハ繼續的デアアル。隨フテ非常時ノ外ハ、國家ガ此相續税ニテ租税刀ノ基礎ヲ侵スコトニヨツテ自ラ害シナイコトガ、國家ノ財政經濟ノ固有ノ利益デアルト。<sup>1)</sup> 此財産寄附ガ實ニ資本家ノ立場ヨリ并ニ財政ノ觀點ヨリ勸メラルルノミナラズ、勞働者ノ立場ヨリモ勸メラルルコトニ就テハ夙ニあだむすみイノ注意スル所デアアル。曰ク、各種財産ノ移轉ノ上ノ凡ベテノ税ハ、此ガ其財産ノ資本價值ヲ減少スルダケデハ、生産的勞働ノ維持ニ定メラレタル資金ヲ減少スルコトニ向フ<sup>2)</sup>。

## 第一段 相續税ノ課税趣旨

(一)

若モ相續税ノ主タル趣旨ヲ以テ相續人ガ相續財産ヲ收得スルニ依ツテ生ズル給付能力ヲ捕捉

- 1) Wagner, Fw. 2 Aufl. II. S. 316. Schanz, Studien zur Geschichte und Theorie der Erbschaftssteuer. (Finanz Archiv. XVIII Jg.) S. 639. Hommelsheim, Die Erbschaftsabgabe. S. 25.
- 2) Adam Smith, Wealth of Nations. Bk. V. Chap. II. Pt. 2. Appendix to Art. I & II.

スルコトニ在リトスルナラバ、此税ハ一ノ所得課税ニ外ナラヌトイフコトニナル。家族のニ相續ヲ見ル場合デモ多少斯クノ如ク、ニイヒ得ルガ、特ニ純個人的ニ相續ヲ見ルノ見解ヨリスレバ、明カニ此税ハ相續者ガ被相續者トイフ別異ノ人ヨリ受クル財産、隨フテ相續者ノ一定期內ノ純價值附加トイフモノヲ課税スルコトナリ、必然此ガ一ノ所謂課税トイフコトナル(註二)。唯ダ其カ普通ノ所得ノ如キ、收入ノ反覆又ハ根源ノ繼續性等ノ特徴ヲ缺ク所ノモノノ重要ナルモノナルガ故ニ、并ニ其ガ無償不勞ノ性質ヲ帶ブルノ故ニ、所得税ヨリハ獨立シテ重ク課税スルコトナルトイフニ止マルト見ルヲ得ル(註三)。

(註二) しあんつハ、人々所得ナ以テ一經濟人ニ一年間ニ入り來ル所ノ純財産附加額ト解スルナラバ、人ハ法定相續財産及遺言相續財産ヲ當該年所得ノ中ニ算入スルヲ得ルトイヒ、ばすてーぶるハ相續税ヲ以テ還元シタル所得税ト爲シ、あたむすハ相續税ヲ所得税ノ特別ノ形式ト見ルコトガ最自然ナル相續ガ之ヲ受ル者ニ取テ一ノ所得タルコトハ爭フヘカラズトイフテ居ル。

尤モ之ニ反對說アリ。例之セリぐまんハ理論的ナル所得税ハ斯カル偶然又ハ意外ナル收入ヲ入ルヘキテナイトイヒ、ほんめるすはいむハ相續財産ハ所得テナイカラ、所得税ニ屬セズ又屬スベカラズトイフテ居ル。

(註三) うんすまハ曰ク、所得税ノアル處デハ、相續ガ所得ノ一形式トシテ課セラルルヲ得ルコトガ考ヘラルル。併シ其ノ偶然且ツ無償ノ性質ノ爲メニ、之ヲ特別ノ税トシテ所得税ヨリモ一層高キ率ニテ又ハ財産税ニ附加シテ課スルコトガ適ムヘキガ如クデアルト。

(二) 併シ更ニ進ンデ考フルト、此税ガ一ノ財産課税トモ見ラルル理由ガアル(註四)。(A)先ツ普通ノ

3) Schanz, a. a. O. S. 672. Adams, The science of finance. p. 360. Bastable, Public finance. 3 ed. p. 594.  
4) Seligman, Essays in taxation. 8 ed. p. 133-4. Hommelsheim, a. a. O. S. 16.  
5) West, The inheritance tax. p. 206.

見解ニ從ヒラ(い)特ニ相續ヲ純僑人的ニ見テ相續人が別異ノ人ヨリシテ或財産ヲ收得シタル其一時  
的且ツ無償的ナル所得ヲ課スルモノト見ルトシテモ、彼ガ之ヲ處分スル工合カラ見ルト、普通ノ  
所得トハ異ツテ、之ヲ以テ直接消費ニ充ツルヨリハムシロ凡ヘテ出來ルタケ多ク之ヲ財産元本ト  
シテ維持シヤウトスル所デアリ、其ノ財産元本トナルヘキモノヲ課税スルノ相續税ハ矢張り財産  
元本捕捉ノ税トイフテ良イ。加之相續ヲ純僑人的ニ見ル場合ニテモ、此税ニ於テ國家ノ相續權ノ  
根據ヲ認メ且ツ貧富懸隔調整ノ社會政策上ノ理由ヲ認ムルニ於テハ、明カニ此税ヲ以テ財産ヲ捕  
捉スルモノト認ムルコトトナル。(ろ)且ツ夫レ相續ヲ家族的ニ見ルナフバ、其ノ家族ニ屬スル財産  
ニツキ、其ノ家長ノ變更ニ際シテ課スル所ノ相續税ハ愈々以テ財産ヲ捕捉スルモノト見ルヘキテ  
アル。(B)或ハ相續税ニ就キ、之ヲ以テ被相續人が其生存中ニ脱税シタモノヲ相續ニ際シテ追徴的  
ニ取ルモノト爲シ(註五)、或ハ彼ガ其生存中ニ、租税制度ノ不備ノ爲メニ捕捉サルルコトノ出來ザ  
リシモノ(並ニ相當ヨリモ輕ク課セラレタルモノ)ヲ齊シク此相續ノ際ニ補完的ニ取ルモノト爲  
シ、又ハ相續人が今後租税制度上捕捉サルル能ハザルヘキモノ(並ニ相當ヨリモ輕ク課セラルヘ  
キモノ)ヲ此際豫メ補完的ニ取ルモノトスルノ觀察ガアル(註六)。之等ヨリイフモ相續税ハ財産ヲ  
捕捉スルモノト解シナケレハナラヌ。此ガ其相續財産ニ就キ脱税又ハ不課税(漏税)トナリ又ハ不  
課税トナルヘキモノヲ取ルモノト見ルベキデアルカラ。尤モ右ノ諸觀察ガ當テ得ルモノデナイ

カラ、此ニ之ヲ問題外ニ置クモ妨ゲハナイ。而シテ其ノ此等ノ觀察ガ當ヲ得ストイフノハ、第一ニ脱税又ハ不課税トナリ又ハナルヘキモノト、相續税ニヨリ取ルモノトガ一致平均スルヤ、此ガ到底精密ニ然リトイフヲ得ヌカラトイフニ在ル(註七)。第二ニハ此ト關聯スルコトデアルガ、相續税デハ既ニ税ノ課セラレナカツタ物ニノミ課スルトイフ譯ニ往カズ、既ニ課セラレタ物ニモ課セラルルコトニナリテ不公平ヲ生ズル。或ハ之ヲ區別シテ既ニ課セラレナカツタ物ダケニ之ヲ課シヤウトシテモ、其財産ガ賣買移轉スルコトアルガ爲メノ故ニ、此目的ヲ達シナイトイフコトナリ得ル(註八)、隨ツテハ矢張り既ニ課セラレタ物モ、課セラレナカツタ物モ共ニ課スルノ外ナキコトニナル。第三ニハ未ダ課セラレナカツタ又ハ課セラレザルヘキ税ノ代リニトイフナラバ、此相續税ニ普通ナルカ如キ累進ノ理由ヲ缺クコトニナリ(註九)、第四ニハ被相續人ニ對シテ追徴又ハ補完の二課スルトイフニ對シテハ、此税ガ本來被相續人タル死者ニ課スルモノデハナクテ、相續人ヲ課税スルモノナルコト(註一〇)、ヲ以テ反駁シナケレバナラス。第五ニハ租税制度ノ相當ニ完成シタ處デハ、斯カル脱税又ハ不課税ヲ前提シテ或税ヲ設クルトイフノハ不都合デアリ又不必要デモアルトイハナケレバナラス(註一一)。

(註四) 諸多ノ學者ガ(A)此相續税ヲ眞ノ財産税ト爲ス。例之ばすてゝぶるノ如キハ此税ガ一般財産税ヲ行フ最良ノ方法トナルトイヒ、こゝンハ此税ガ確カニ實質的ノ財産税也トイヒ、しえゝるハ此税ノ第二ノ特徵ハ此ガ固有且ツ眞ノ財産税ナルコトニ在リトイフ。(B)或ハ之ヲ特殊ノ財産税トイフ。例之ろつしめハ相續税ハ財産税ノ重要ナル變種ト見ラレナケレバナラス

トイヒ、うゑすこハ年一度ノ代リニ一代ニ一度支拂ハルル財産税也トイヒ、(つけるハ回期的ニ徵收サルル補充的ノ財産税、又ハ交通税的財産税トイヒ、ふいすちんぐハ相續税ノ凡ヘテノ現在ノ形式ハ交通税トシテ成形サレナイデ、財産増加ヲ課スル所ノ財産税ノ一種トシテ成形セラルトイフ。(C)或ハ此ガ他税ノ性質ト共ニ財産税ノ性質ヲ有ツトイフ。例之こんらービハ此ガ財産及所得税ニ入ルトイヒ、ほんめるすはいむハ此税ガ相續人ノ所得ヨリ支拂ハル能ハザルダケテハ、眞實ノ財産税ヲ表ハストイヒ、しゑふれーハ相續税ヲ二ニ分テ、相續財産ノ追加的課税ト相續人ノ豫收的ノ課税トシ、前者ニテハ、相續財産ヲ相續財産トシテ課スト爲ス。

(註五) ろつしあーハ人ガ近頃、相續税ニヨツテ、貯蓄ニ依ル財産増加隨テ消費税ヲ餘リ貢ハナカツタモノ并ニ景氣利得即チ通例ノ收益及所得税ヲ多少脱シタルモノヲ公平ノ爲メニ負擔セシムルコトヲ勸メタイトヒ、(此ハ一部ハ税制ノ不備ノ爲メ不課税トナルモノニ關スル)うゑすこハ、動産ノ大ナル額ガ其所有者ノ生存中全ク脱税サルルコトハ人ノ良ク知ル所テアル。相續税ハ即チ財産所有者ノ生存中彼ニヨツテ脱ラレタル税ヲ集メル方法トシテ提案サレタイヒ、せりぐまんハ一般財産税ガ大ナル度ニテ生存中脱税サルルノ故ニ、税ノ脱セラルル能ハザルトキニ財産ニ課税スルコトガ正當ナルヘシトノ説アリトイフ。<sup>(7)</sup>

(註六) (A)廣ク被相續人ニテ不課税タリシモノ并ニ相續人ニテ不課税トナルヘキモノニツキテ之ヲ説クハ例之、しゑふれー、曰ク、相續税ノ機能ハ三ツアル。第一ハ被相續人ニテ増加シタル財産ガ直接税ヨリ捕捉サレナカツタトキハ又捕捉サレナカツタダケニテ、之ヲ間接税ノ補充的機能ニテ追及的ニ捕捉スルコト、第二ニ被相續人ガ財産蒐集ニヨツテ消費税ヲ脱シ、蒐集能力ニ於テ著シキ租税力ヲ示シタルコトノ爲メニ追加的ニ課税スルコト、第三ニハ臨時ノ財産附加ヲ受ル所ノ相續人ヲ前以テ、一部ハ間接税ノ補充機能ニテ、一部ハ間接税ノ主要機能ニテ均衡アル課税ヲ爲ハコトテアルト(此ニ舉ルモノハ一部ハ脱税ニ關ヘル)こんらービハ富者階級ガ下層社會ニ對シテ間接税ニツキ租税體系ニ於テ餘リニ有利ニ取扱ハルル以上ハ、特ニ十分ナル累進ガ所得及財産税ニ行ハレナイ以上ハ、高キ相續税ガ當ニ公正ナルノミナラズ、要求サレタルモノデナケレバナラストイヒ、ほんめるすはいむハ相續税ノ機能ハ所得(又ハ收益)及財産税ノ補充テアル。財産税デハ生産的ニ放下サレザル財産即チ家具、裝飾及美術品、圖書等ガ漏レ、所得税ニハ非回期的ナル收入ガ漏ルル。此等ア此相續税ニテ税

6) Bastable, l. c. p. 590. Cohn, System d. Fw. S. 298. Scheel, Erbschaftssteuern und Erbschaftsreform. S. 22. Roscher, System d. Fw. 5 Aufl. I, S. 434. West, l. c. p. 205. Heckel, Lehrbuch d. Fw. I. S. 420. 421. Fuisting, Grundzüge d. Steuerlehre. S. 70-71. Conrad, Grundriss. Fw. 2 Aufl. S. 40. Hommelsheim, a. a. O. S. 25. Schäffle, Steuern. B. T. S. 420.

7) Roscher, a. a. O. S. 435. West, l. c. p. 204. Seligman, l. c. p. 135.

シヤウトイフノデアルトイフ。<sup>2)</sup>

(B) 特ニ被相続人ニテ不課税タリシモノニツキテ説クハ、例之しえーらー、彼ハ、相続税ハ被相続人ノ財産ニ集メラレタル所得部  
ヲ間接税ノ補助作用ニテ追加的ニ抽提スル目的ヲモツトイヒ、うえずこハ此税ハ未ダ課セラレナカッタ税ノ代リト見做サレ  
タ。例之助産税ナキ處デハ相続税ガ其代リト見做サルコトガ出來ル。又凡ヘテノ財産ガ課セラルル處デモ相続税ノ課セラ  
ルルトキニハ税率ノ減セラルルコトガ期待サルルヲ得ルトイヒ、えーべるハ此税ガ規則正シキ課税ヲ避クル所ノ所得部ヲ  
抽提スル爲メニ補完税トシテ働キ得ル。此ガ特ニ通例財産税ニ屬セザルモ大ナル給付能力ヲ示ス所ノ貴重ナル家具、裝飾品、  
繪畫蒐集、書物等ニ當ル。併シ此ハ所得收益ニモ當ル。近世經濟時代ニ於ケル營利方法ノ非常ナル多様ニ於テ之ヲ所得及收  
益税ニテ凡ヘテ課税スルコトハ不能デアアル。特ニ大ナル種々ノ收益種類ヨリ集ル所ノ所得デハ之ヲ概觀シ課税スルコトニハ  
困難ガ生ズル。又多クノ租税力アル元素ガ消費税ナモ脱スル。此等ガ相続税ニヨリテ追加的ニ少クとも多少國家負擔ニ任セ  
シメラルルコトガ出來ル。特ニ或他ノ交通税ニヨリテヨリモ一層其キ方法ニテデアルトイフ。<sup>9)</sup>

(C) 相続税ヲ特ニ有基所得ニ對スル附加的ノ税トスルハ、例之ぼるぐと、彼ハ此税ガ有基所得ノ課税ノ補完トナルトイヒ、ぼん  
めるすはいむモ此税ニ有基所得ノ一層大ナル課税ノ理由ガ當ルトイヒ、せりぐまんハ今日ハ通例財産ヨリノ所得ハ勞力ヨリ  
ノ所得ヨリモ高キ税率ヲ課スヘキコトガ認めラルル。此目的ヲ達スル爲メニ税率ニテ差異ヲ附スルコトノ代リニ、比例的ノ  
所得税ガ財産税ヨリ補充サレ、此ガ好マシカラザル場合ニハ相続税ニヨツテ補充サルヘシトイヒ、えーべるハ相続税ハ有基  
所得ノ課税ガ十分ナル方法ヲ行ハレザル處デハ、財産税トシテ現ハルルコトガ出來ル。其ガ高イ率デハ單獨ニテ、低イ率デ  
ハ年々賦課サルル財産税ノ外ニモ現ハルルコトガ出來ルトイヒ、うえずこハ獨逸デハ相続税採用ノトキニ、人的努力ヨリノ  
所得ト比較シテ財産ヨリノ所得ノ上ノ負擔ヲ増加スルノ趣旨ガアツタトイヒ、ばりゆーハ英佛ニ於ケル不動産税ノ輕イコト  
ガ此二國ニテ相続税ヲシテ頗々高カラシムル理由ノ一デアルトイフ。<sup>10)</sup>

(註七) うえずこハ此税ニモ缺點ガアル。何トナレバ相続税ハ其ガ實際空文ニ屬スルガ如ク一般且ツ一様ニ脱税サルル場合デ  
ナイ以上ハ、各箇ノ場合ニ脱セラルル税ノ額ニ必然ノ關係ヲ有タナイカラトイヒ、せりぐまんモ亦此説ノ正當ハ疑ハシイ。

8) Schäffle, a. a. O. S. 420. Conrad, a. a. O. S. 40 Hommelsheim, a. a. O. S. 16-18.

9) Schöler, Die Reichserbschaftssteuer. S. 69. West, l. c. p. 205. Eheberg, Fw. 9 Anfl. S. 312.

10) Porgh, Fw. S. r61. Hommelsheim, a. a. O. S. 19. Seligman, l. c. p. 134.



何トナケレバ相續税額ト生存中ニ脱税シタル税額トノ關係ヲ證明スルコトハ不能デアルカラトイヒ、ふなづけハ如何ニシテ人ガ此不課税ノ所得ヨリ生ズル財産部ヲ確知シ測定スルヤ、此税ニヨツテ全舊來財産ヲ課税シ、被相續人ノ處ニテ正當ニ課税サレタルモノ並ニ課税サレナカシタモノヲモ課税シ、之ニヨリ大ナル無頓着ニ陥リ、全ク不課税部ヲ有セザル相續財産ニハ大ナル不公正トナルトイフ。<sup>11)</sup>

(註八) 例之ちうハ曰く、相續税ガ例之利子税ノ補完税トナルコトニハ、此ガ其收益ノ既ニ他ニテ課税サルル財産ニモ關スルコトノ缺點ガアル。隨ツテ人ガ不動産、所有者自身ヨリ營業ニ使用サルル財産(此等ノモノニハ既ニ税ガカカツテ居ル)ヲ相續税カラ免稅シヤウトスルモ、夫ノ不平等ハ全ク排除スルコトハ出來ナイ。何トナレバ財産ノ放下方法ハ屢々變更ヲ受ルモノデ、例之不動産ガ被相續人ヨリツイ近頃賣却セラルルコトガアルカラト。<sup>12)</sup>

(註九) 此事うえすこノ主張スル所デアル。こゝンモ亦タ曰ク、年々賦課スル所得税ニ對スル追加的ノ税トシテ此税ヲ辯護スルコトハ此ガ相續人ノ親等ニ累ラシメラルルノ故ニ一致シナイト。<sup>13)</sup>

(註一〇) 諸多ノ學者ハ相續人ガ此税ノ納稅義務者ナリトイフ。えいべるひ、ふいすちんぐ、ほんめるすはいむノ如シ。特ニしえーるハ納稅主體ハ實際的實行(納稅ノ)ノ爲メニ相續人デナケレバナラストイフ。<sup>14)</sup>

(註一一) ふいすちんぐハ曰ク、斯カル粗ナル課税ノ形式ハ全ク不完全ナル租稅制度ヲ有スル國ニテハ缺陷補充ノ用ヲ爲スヤモ知レナイ。併シ近頃ノ要求ニ多少相當シタル租稅體系デハ其餘地ハナイ。此ニハ人的給付能力ニヨル租稅力ガ直接税ニヨリ全體ノ範圍ニテ課税セラルヘク、財産ガ貯蓄相續等ノ爲メニ増加シタルタケデハ所得稅收益税又ハ財産税ニヨツテ行ハレ此等ノモノニヨリ各ノ租稅力ガ十分ナル範圍ニテ課税セラルトキニ、之ヲ超ユル所ノ所得ノ課税ハステ不當デ、特ニ追加又ハ豫收的ノ課税ハ全ク排斥セラルル。追加又ハ豫收的ニ課税セラルルヲ得ヘキ又ハ課税セラレナケレバナラヌ所ノ何モノモナイト。<sup>15)</sup>

(三)

右ノ如クニシテ相續税ガ財産元本ヲ捕捉スルモノト見ルコトガ出來ルトシテモ、而モ之ヲ以

11) West, l. c. p. 204. Seligman, l. c. p. 135. Vocke, Grundzüge d. Fw. S. 124-5.

12) Rau, Grundsätze d. Fw. 5 Aufl. II. S. 207.

13) West, l. c. p. 205. Cohn, a. a. O. S. 297-8.

14) Eheberg, a. a. O. S. 310. Fuisting, a. a. O. S. 68. Hommelsheim, a. a. O. S. 6. Scheel, a. a. O. S. 64.

テ直チニ普通ノ財産税ト同一視スルヲ許サス。何トナレバ財産税トシテハ相續ノ如ク一ノ發生後、次ノ發生マデノ期間ノ長短ニ不同アルモノハ不公平デアルカラデアル(註一二)。而シテ之ヲ一ノ所得税トシテモ、相續ニヨル收得ガ普通ノ所得ト性質ノ異ルコト前説ノ如クデアルカラ、之ヲ直チニ所得税トイヒ切ルノモ過キテ居ル。矢張り兩者ヨリモ獨立シタル交通税ト見ルノガ最可デアル(註一三)。唯然シ其ニシテモ大體財産元本ヲ捕捉スルノ趣旨ヲモ有スルコトハ爭フヲ得ナイ。デ名ハ財産税デハナイニセヨ、實ニ於テハ特殊ノ財産税トイフテ妨ゲハナイ。

(註一二) 之ニツキ夙ニあだむすハ曰ク、斯カル税ハ移轉サル財産ノ價值ニ比例シテモ尙不公平デアル。移轉ノ度數ハ常ニ同價值ノ財産ニテ同一テナイカラト。又つしあハ曰ク、此目的(脱税ヲ追拂ハル目的)ハ規則正シキ財産税(所得税ノ外ニ存スル所)ニヨリテ一層確實ニ且ツ一層其ク遠セシムル。——財産税ガ一層其キモノデアラウ。何トナレバ相續税ハ其起ルコトノ不規則ナルガ爲メニ、短キ生存期間ヲ有スル家族ヲ長命ノ其ヨリモ一層嚴シク壓迫シナクレバナラヌカゾト。らう、ほんめるすはいむ、とらへんべるぐ(わるかーニ依ル)等類似ノコトチフ。<sup>16)</sup>

尤モ此不公平ヲ矯正スル爲メニノ方法ガ考エラル。(一)ノ方法ハろつしあノ學グル方法デ、相續人ノ著然の生存期間ニヨリテ累進トスルノデアアル。例之相續人ガ六十歳以上ナルトキハ正常税ノ三分ノ一ヲ免ジ、七十歳以上ノトキハ半分ナ、八十歳ノトキハ三分ニ一ヲ免スルガ如クデアアル。——併シ之ニ對シテハ反對ガアル。例之うえすまハ此ガ成年者ヨリモ未成年者ナ一層重ク税スル好マシカラザル結果トナルトイフ。(尤モ減税點チ高年ノ處ニ定ムルコト前記ノ如クスレバ此非難ヲ免ル)

(第二)ノ方法ハわるかーノ舉ル方法デ、不確實ナル未來ノ期間ニ依ルモノテナク、前相續ヨリ現相續ニ至ル過去ノ期間ノ長短ニヨリ斟酌ヘルノデアアル。例之統計上一國一時代ノ財產階級ニ於テ平均四十年ニシテ一相續ガアルトスレバ、一、二、三年後ノ相續ハ正常率ノ  $\frac{1}{40}, \frac{2}{40}, \frac{3}{40}, \dots, \frac{40}{40}$  ..... 四十一、四十二、四十三年後ノ相續ハ  $\frac{41}{40}, \frac{42}{40}, \frac{43}{40}, \dots$  ..... チ課スルコトトシ、一年

16) Adam-Smith, l. c. BV. Ch. II. Pt. II. Appendix to Art. I & II. Roscher, a. a. O. S. 435. 441. Rau, a. a. O. II. S. 207. Hommelsheim, a. a. O. S. 19. Walcker, Fw. S. 56.

内ノ相續税ハ免税トスル。——うゑすこモムシロ之ニ賛成デ、若モ差別ヲ爲ストスレバ、不確實ナル次ノ相續マテノ期間ノ長サヨリハ、ムシロ前ノ移轉以來經過シタル期間ヲ考フルヲ優レリトスルトイフ。然ルニほんめるすはいむハ尙ホ此ニテモ不十分ナルコトハ、其被相續入ノ所有期間中ノ財産ノ富サニ於ケル動搖ガ考察サル能ハザルコトデアルト注意シテ居ル。<sup>17)</sup>

(註一三) ふいすちんぐハ明ニ相續税ヲ交通税ノ中ニ加フル。えーべるびハ曰ク、相續税ハ死ノ爲メノ財産交通税デアル。

——相續税ハ第一位ニテ交通税デアル。何トナレバ此ガ交通ニアル財産ヲ課税スルカラ。併シ此ガ或意味デハ財産税デアル。此ガ原則上相續財産ニヨリテ表ハサレタル全財産ヨリ徴收サルルタケテハ然リデアル。随ツテ間歇的ノ財産税ノ形ニテ徴收サレタル交通税トモイフト。更ラニうゑすこハ此税ヲ交通税トスルノ意味ニテ辯護ス。曰ク、此税ヲ死亡ヨリ生ズル移轉ノ度數ノ異ルコトノ爲メニ不公平也トイフ非難ハ、此税ナ一代ニ一度支拂ハルル財産税ト見ルコトニヨリテノミ支持サルルコトガ出來ル。此ガ財産ヲ見テ納税者ノ能力ヲ見ナイ。併シ若モ此税ガ相續ノ制限ト見ラレ、又ハ檢認手數料トシテ又ハ相續ヨリ生ズル納税力ノ増加ニ基ケ税ト見ラルルナラバ、移轉ノ起ル毎ニ之ヲ徴スルコトニ何ノ不公平ハナイ。税ガ同一財産ニ就キテ不平等ナル間隔ニテ拂ハルルカモ知レナイ。併シ其度毎ニ此ガ所有ノ新變化ノ結果トシテ別異ノ人ニヨツテ拂ハルル。此故ニ簡人的ノ能力又ハ犧牲ノ觀察點ヨリハ不平等トイフヲ得ス。<sup>18)</sup>

17) Roscher, a. a. O. S. 434. 440. West, l. c. p. 211. Walcker, a. a. O. S. 57. Hommelsheim, a. a. O. S. 19.  
18) Fuisting, a. a. O. S. 32. Eheberg, a. a. O. S. 310. West, l. c. p. 210.